

ならやまトーク・投句 夏・初秋編

鉄洗ふせせらぎ速し梅雨晴間 藤原 勲

(久しぶりの梅雨晴れ間、畑が待っている。仕事を終えて鉄を洗いながら木陰で一息つく。水量を増した流れの音が心地よい)

国中は湖面とまがう代田かな 笠井文夫

(笠井さんの初投句。のびやかな悠然たる句調が良い。代掻きを済ませた田圃。高所から眺めると、光つて一面の湖の如しと詠む)

夏雲湧き我々たる劔天を切る 中井 弘

(夏山の記憶。大日岳から見た劔岳が真つ青な空を切裂いて立っていた。添付された写真がまた迫力満点、素晴らしい作品でした)

緑陰に肌も染まりて磨崖仏 藤原 勲

(当尾の里、唐臼の壺の先に阿弥陀如来座像と地藏菩薩立像の磨崖仏。石仏の背後には夏木立が被さり、仏を緑に染める。爽やかな一句)

胸反らせ弾ける校歌雲の峰 藤原 勲

(この夏一試合だけの高校野球交流試合。万感を込め校歌を絶唱)

夕されば蟬の羽月と浴衣出し 坂東久平

(蟬の羽月とは、旧暦6月のこと、蟬の羽のような薄い衣に変える季節とか。それにしても、浴衣を着る機会も少なくなつた)

梅雨空や呼吸機拒み友の逝く 岡田安弘

(友人がコロナの犠牲になつた。人工呼吸器を見て、体裁が悪いと拒んで旅立つた)

酷暑にも畦草伸びる速きこと 鈴木末一

(史上最高の暑さ、畦草との闘いが続く。刈つても刈つても、追いついてくる夏草の逞しさ。農とは草との闘い、というけれど)

夏草を刈るキノパンの草木染 古川祐司

(旺然と伸びた夏草に奮闘2時間、粋なキノパンは鮮やかな草木染に仕上がるのだ)

三密を喰ふが如し蟬時雨 八木順一

(7年の地中生活が終わつた。地上は夏の晴れ舞台、皆集まれ、唄え)

盆休み畔に忘れし捕虫網 八木順一

(孫たちの里帰り、ワツとやつて来て、あつという間に帰つた。その残像！)

6万羽ツバメ渦巻き罫入り 鈴木末一

(平城宮跡の芦原、八月中旬夕暮れ。6万羽の燕が罫入。まさに壮観)

我慢して小さいマスク秋近し 岡田安弘

(ただ一人のアベノマスク愛用者。とうとう大きいサイズに変えましたね)

ならやまに折々の人盆の月 古川祐司

(盂蘭盆の宵、縁のあつた方々を偲ぶ。Hさん、Nさん、Kさん、Tさん……みんな、あの日のならやまの景色の中、温顔が甦る)